



福島南ロータリークラブ

事務局/〒960-8151 福島市太平寺字通吹 6-2 ザ・36・メイファイブ 1F2号室
tel. 024-546-3793 fax. 024-545-7878
例会場/サンパレス福島 〒960-8101 福島市上町 4-30
tel. 024-523-3811(代) fax. 024-23-0375
HP アドレス <http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html>



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011年—2012年 RI テーマ

■会長：高橋和之 ■幹事：菅原節子
■会報委員長：松崎弘昭 ■副委員長：鈴木光一
■委員：丹治智幸 丹治洋子 福田昌明

第28回例会

平成24年2月1日(水) サンパレス福島

■メークアップ/23名 ■修正/67名 ■修正率/100% ■会員/67名 ■出席/44名 ■出席率/65.67%

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 来訪者紹介と会長挨拶
- 3 ベネファクター 表彰
- 4 「ロータリーの友」読みどころ
- 5 誕生者お祝い・スピーチ
- 6 復興支援室 報告
廣澤 俊樹 室長
- 7 閉会点鐘

今月・来月のプログラム

- 2月 8日(水) 第29回例会 IM 準備例会 第9回理事会
- 2月 15日(水) 第30回例会 IM 準備例会
- 2月 17日(金) IM(東北第一分区インターシティミーティング) サンパレス福島
- 2月 18日(土)~23日(木) 国際奉仕旅行 ハワイ
- 2月 22日(水) IM 振替休日

今週のトピックス

復興庁が誕生する。福島市にも、復興局が置かれる。復興へ向けての第1歩。復興へのスピードアップを期待する。地方政治の再生のきっかけとも成りうるかもしれない。

◆会長あいさつ◆



高橋 和之 会長

2月誕生者の会員の皆様、お誕生おめでとうございます。2月の誕生花は「うめ」だそうです。暖かい春の気配を感じさせる誕生花です。仮設住宅の被災者の身を案じますと、『早く来い来い梅の咲く春』と願うばかりです。

さて、あっという間に一月が過ぎましたが、2月といえばこの17日行われますインターシティ・ミーティング(以下IM)、ボリウムのあるプログラムです。東北第一分区の事業では一番大きなプログラムですが、当クラブがホスト役として今年度の当番です。

野地PPにIM実行委員長をお引き受け頂きました。実行委員会の皆様はじめ各委員長さんには、大変ご苦労をお掛けしております。重ねて、感謝・御礼申し上げます。既にご承知の通りですが、今回のIMは三部構成となっております。第一部は大橋直前ガバナーに「基調講演」をお願いしております。第二部はテーブル討議で、テーマは「3・11後の職業奉仕」です。第三部は懇親会となっております。

先週の25日(水)に、東北第一分区ガバナー補佐並びに幹事と、区内クラブのリーダー2名づつと、当クラブの実行委員会各委員長出席の下に、「IM実行委員会グループリーダー会議」が開催されました。

今回開催されますIMプログラムとグループ討議の流れやグループ割について説明がなされました。熱心な質疑応答やご提案などもありまして、準備が着々と進んでおります。

また、昨日の第一分区の会長・幹事会では、各クラブの会長・幹事さんにも説明を致しまして、ご協力をお願いして参りました。

実行委員会では、当日のIMが、極力スムーズに行われますよう配慮を重ねているところですが、当クラブの皆さんにも良くご理解頂くために、急遽、2月8日もIM準備例会に変更させて頂きましたのでご了承下さい。特に各テーブルの記録係になられます皆様には、是非ご出席頂きたくよろしくお願い致します。

それから、2月25日(土)に、福島中央RCにより「あれこれなんでも無料相談会」が開催されますが、相談にのって頂くプロの先生方にご協力をお願いしたいと、福島中央RCの会長さんから要請がありました。ご協力よろしくお願い致します。

◆ベネファクター 表彰◆



今年度は、高橋和之会長がベネファクター表彰。財団の恒久基金に対する1,000ドル以上の寄付に対してベネファクター表彰となります。

◆「ロータリーの友」読みどころ◆

吉田 仁一 会員

前岩手県知事の増田寛也さんの大会記念講演の要旨記事があります。新たな国づくりは、どうあるべきかについて、ハード面とソフト面の両面から論じられています。特に、共助とか、コミュニティーが大切ということが、気付かされたという内容でした。東日本大震災の活動記録に寄せられた大橋パストガバナーの巻頭言と共通するものと感じました。

◆誕生者お祝い・スピーチ◆

○齋藤 浩 会員 (76歳)

RIからの3通のメールを紹介します。



- ① ポリオの撲滅を最重要目標として活動していること。
- ② ビル・ゲイツ財団から2億ドルの寄付があり、ロータリー財団からも同額の寄付が集まったとのこと。
- ③ 日本で3人目のRI会長が誕生すること。

○齋藤 信男 会員 (64歳)



子どもは独立し、家内と猫5匹と暮らしています。ロータリアンとして求めることは、高邁な理想ではなく、自分に出来ることを地道にやる。自分の信じることをやって行くこと。生涯の友となる方を、ロータリーで見つけることが出来たらと思っています。

○吉田 仁一 会員 (62歳)



還暦を過ぎて2年となり、これまで感じなかったものが、少しずつ感じるような気がします。例えば、人の気持ち。表情や語調などから、少しずつ分かる気がします。4つのテストの「好意と友情を深めるか」を胸に刻んで高めて行きたいと思っています。

都合により欠席でしたが鈴木光一会員、横山りつ子会員も誕生月を迎えられました。

◆復興支援室 報告◆

廣澤 俊樹 室長



当クラブは、福島大学と協議の下に、この地で、どのような支援策が出来るかについて、『学生の力で、世界と繋がるプロジェクト』を進めます。

福島県に対する尾ひれの付いたとてつもない風評を払しょくするためのものです。

福島にある最高学府である福島大学との連携を進めます。それは、福大の出身者は、福島県内外の中枢

で活動を続けて行くことが想定されるからです。学生を対象と選んだのは、しがらみがないことが理由です。

事業内容は、福大と他国の学生と、ロータリアンとが、放射能被害を受けた地域の福島県で交流します。交流期間は1週間を想定し、年に3回。3年連続開催を想定しています。この事業は、学生が、どう感じたかを聞くことが出来ます。それを、ロータリアンが活かして行くことが出来ます。福島県は、放射能被害を営々と受け継いでいく地域で、格好の教材となると成りえます。

この災害を受けて、“もしかしたら、あの時、福島にいたのですか?”という質問が、結婚の際に問われるような可能性があります。

原爆によって、広島・長崎に対する風評は長続きはしなかった経過があります。これまでの日本には、長崎や広島からの物産を買わない文化はなかったといえます。今後、その対象が福島県となるのも、事実であることを考えれば、大学に、ロータリーが講座を設け、文化貢献が出来るようになればと考えます。この講座が、地域に対する貢献策になれば良いと考えています。

◆インターアクト奨励表彰◆

1月25日(水) IAC例会にて、表彰がなされました。

- [表彰者]
小幡有沙部長
相馬聡乃副部長
渡辺健太郎副部長
広野里恵さん
丹野里菜さん
鹿山瑞希さん
半澤舞さん
横山颯さん



◆スマイリングボックス◆

2月誕生者おめでとうございます。高橋 和之 会長
2月の誕生者の皆様おめでとうございます。

菅原 節子 幹事
大変ご無沙汰しておりました。これからは、少しずつ出たいと思います。
吾妻 学 会員
やっと76歳になりました。
齋藤 浩 会員
交通安全 林 克重 会員

スマイル 38,000円 累計 1,257,000円
財団・米山 46,000円 累計 1,203,000円

～一週一言～ 「成る」と「為す」

「やれるだけやる。そして成る様にしか成らぬ。」成るということの中に為すということがあり、為すということの中に成るということがある。それが分かれば、命を知るといふものだ。

安岡 正篤 一日一言より

—編集後記—

復興支援活動報告から、これからの長い復興への覚悟を決める時と感じました。(丹治智幸)